

経営理念	<p>【研究テーマ】「自尊感情を高め、自信とやる気のある生徒の育成」 ～生徒に居場所と出番を与え、活動させ、成功体験・役立ち喜びを体験させ、それを褒めて認める教育の実践～</p> <p>【めざす生徒像】◎自己指導力の身についた生徒・自他を大切に、仲間とともに協力、奉仕できる生徒・基礎学力を身につけ仲間と学びあえる生徒 ・将来への展望をもって自ら学び、根気強く努力する生徒・豊かな感性と健やかな体をもった生徒・素直で礼儀を重んじ、挨拶・返事のできる生徒</p> <p>【めざす学校像】◎安心・安全・安定した学校・生徒が生きていきと活動し、自ら学びたくなる学校・安全で自分を成長させてくれる学校 ・保護者が子どもを通わせたい学校・地域の学校として信頼され、誇れる学校</p> <p>【めざす教師像】◎常に一歩前進し、尊敬される教師・愛情をもって、生徒の意欲、可能性を引き出し、鍛えることのできる教師・わかる楽しい授業を工夫する教師 ・豊かな人間性と指導力の向上に努める教師・教育公務員として自覚と誇りをもち、生徒・保護者・地域から信頼される教師</p>
------	---

中期経営目標	短期経営目標（評価項目）	自己評価		学校関係者評価		改善策等	
		達成状況	評価	考察	評価		
豊かな心の育成	多様な体験活動を通して、人とかかわりを深め、豊かな人間性を育む。	学級活動や生徒会活動を通して、自己肯定感の育成や人間関係づくりを推進する。学級便りや部活動通信・学級会活動を通して、生徒に肯定的な評価をする。	生徒を活動させ、成功体験を得られるように計画・支援することで、自己肯定感・自尊感情を育む指導が行えている。	A	生徒会活動・専門委員会活動を活発にし、生徒の自主・自立の力を育ててほしい。	A	生徒が主体となる活動を生徒自らが企画立案し、成功体験と達成感を持たせ、自己肯定感を高めたい。
	生徒一人ひとりに出番を与え、成功体験・満足感・認められ感を持たせ自己肯定感を育成する。	人との関わりを豊かにするための体験的な学習やボランティア活動等、これまで以上の学校行事の充実を推進する。	運動会や文化発表会など生徒が主体となった取り組みで、学校としての一体感が出てきた。またボランティア活動に積極的に参加することにより、自己肯定感の育成につなげている。	A	ボランティア活動などの学校行事等は充実してきている。主体的な活動にすることにより、達成感や満足感を持たせ、自信をつけさせる取り組みを充実させていってほしい。	A	現在の取り組みを継続して推進し、成功体験を実感させるとともに、周りからの評価や賞賛により自己肯定感を養い、自信をつけさせていく。また、マンネリ化を防ぐことも、いつも頭に入れた活動としたい。
	読書活動の推進(図書館教育の推進を図り、言語環境の整備を進める)	朝読書の更なる充実を図る。図書資料を活用した授業実践を行う。生徒が利用しやすい、図書館の環境整備を行う。小学校への紙芝居の読み聞かせを実施する。	朝読書の充実や小学校への紙芝居の読み聞かせは実施できている。昼休み等の図書館を利用した読書活動は向上している。授業ではあまり活動がない。	B	本に親しむ図書館運営ができており、今後も継続してほしい。また、各教科との連携により言語活動の充実に努めてほしい。	B	これまで以上に、保小への読み聞かせ等の活動を活発にし、修学旅行や職場体験学習等で生徒が活躍できる取り組みを推進する。
	道徳教育を推進し、「聴く」「語る」ことのできるコミュニケーション力の育成を図る。	今まで以上に道徳教育の推進に取り組む。道徳資料を深く読み、生徒が「語り」仲間の意見を「聴く」ことのできる授業を研究していく。	道徳教育については肯定的に考えている生徒が多い。自分を語り仲間の意見を聞くことで自己を高めている。	A	道徳では、全学年が生徒の実態に即した工夫をし、興味・関心をもたせるような指導ができています。	A	道徳では、教材研究に学年全体で取り組み、生徒の興味や関心を引くような工夫した授業展開になっている。
学力の定着と向上	国語、社会、数学、理科、英語の基礎学力を伸ばし、生徒の学ぶ力を高め、全国水準の学力を保障する。	生徒にとってわかる楽しい授業を創造し、基礎学力の向上と定着を図る。 ○個人カルテの活用と授業改善をする。 ○反復学習（赤中タイム）の充実を図る。 ○朝の10分間読書を一層推進していく。	全教員が年間2回の研究授業・公開授業を行うことができ、授業改善や授業力の向上につながった。教科間連携も進みつつある。意見を絡み合わせることが不十分であった。生徒指導の3機能を意識した授業展開を構築することが課題であろう。	B	どの教科も教員・生徒共に授業評価システムによる授業評価を行って授業改善に取り組んでいるが、国際社会に通用する人材の育成のために、英語の力だけでなく自己主張のできる人を作りたい。	A	「考えないといけない発問」「多様な意見や考え方が出て、それらの意見から考えや意見が交流できる授業展開」「切り返しを用意して授業に臨む」「生徒の予想される答えを十分に考慮した授業づくりを行う」などの教材研究を継続する。
	家庭学習の習慣化に努める。	家庭学習の仕方（方法と内容）を具体的に指導し、授業や定期テストに関連させた課題を出す。	家庭学習が30分以内の生徒が28%とまだまだ多い。	C	これからも家庭学習に取り組む習慣を身につけさせてほしい。	B	次の授業に向けて、具体的な家庭学習の内容を指示することによって、その事を授業に生かし、意欲化につなげたい。
	言語活動の充実を推進する。(コミュニケーション力の育成・向上)	「聴くこと」「語ること」「思いを伝えあうこと」のスキルの向上を目指した言語活動の実践を行う。	授業や学活等で聴く姿勢・発表の仕方・討議のしかた等に取り組んできたが、まだ定着するまでにはなっていない。さらに継続して取り組む必要がある。	B	生徒たちが授業で意見を発表し、生徒が思考する場面を大切に授業展開を今後も続けてほしい。	A	多様な意見が出せる「発問」の工夫をする。出された意見を絡み合わせ、互いが高まりあえる授業づくりの研究を行う。対教師ではなくて、生徒同士の意見交換につなげたい。
信頼される学校	保護者や地域に開かれた学校づくりに努め、信頼される学校を確立する。	学校便りや校長室便りや学級便り、生徒会便り、部活動通信等により、保護者や地域に対して、積極的に情報発信をする。	学校便り、校長室便り、各学年学年便り・生徒会便り、部活動通信を年間を通して発行し、生徒の肯定的な評価を掲載することができている。	A	各便り等により、学校の取り組みや願いがよくわかる。内容も生徒のがんばりを肯定的に評価できている。	A	学校便りや各学年便りを今後も継続して発行し、学校や生徒の様子を積極的に発信する。また、保護者会等を開き信頼関係を継続させる。
	安心・安全な居心地の良い学級づくりを推進する。	昨年度以上の保護者・地域住民の参加を得られるような参観日等の学校行事の工夫をする。	地域住民や高校生と合同訓練を実施したことで、防災意識の高まりがみられた。しかし、PTAの協力体制は弱い。	B	保護者に様々な活動に参加してもらいたい。保護者と地域が学校と協力することが大事。	C	各学年PTAの活動を活性化させる。生徒と保護者が一緒に取り組める活動を仕組む。
	全校統一した授業規律の確認と授業実践を行う。	定期的な「いじめ」アンケートの実施やQ-Uアンケートの活用により、生徒にとって安全・安心の学校づくりをする。	全体的には、落ち着いた学校生活がおくられてきているが、学年によっては落ち着かない日があるなど、課題もある。	B	どの学年も静かに授業を受けることができています。今後も一層の努力をしてほしい。	A	生徒との人間関係を築くことにより、信頼関係ができる。何でも相談できる存在となるためにも授業、休み時間、部活動等も大切にする。
		共感的な人間関係が構築された学級づくりを目指すために、学級経営について全学年統一した内容の取り組みを実践する。	全学年が、赤中授業スタンダードにのった授業規律・発表の仕方「話型」等に取り組んでいる。	A	どの学年に入っても同じ取り組みがなされていて学校としての実践であると感じられた。	A	統一した取り組みを続ける。教材研究を更にレベルアップにつなげていく。同じことの繰り返しは、向上ではない。

【評価規準】 A：十分満足 B：おおむね満足 C：もう少し努力すべき D：大いに努力が必要

経営理念	<学校教育目標> あたり前のことがあたり前にできる生徒を育てる
	<生徒像> (1)自ら学び、考え、判断し、行動ができる生徒 (2)あたり前のことがあたり前にできる生徒 (3)夢の実現に向けてのチャレンジする生徒 (4)心身ともに健康な生徒
	<学校像> 飛び立とう 香我美は夢への滑走路 ~ かがやけ がんばれ みりょくあれ ~

中期経営目標	短期経営目標(評価項目)	自己評価		学校関係者評価		改善策等	
		達成状況	評価	考察	評価		
確かな学力の定着	(1)学習のスタンダード、授業改善プランの実践	標準学力調査、全国学力・学習状況調査は県平均に近づく	標準学力調査 1年+2.3、2年-4、3年-7 A問題では県平均に近づいているがB問題の応用問題では課題がこの	B	学力調査を分析し、確かな学力の定着を図るため授業改善プランの実践等学力の定着に努める	B	B問題に対応できる思考力を身につけるよう、授業改善プランを通して、授業改善をしていく。
	(2)生徒指導の三機能を基本とした授業づくり	(2)平日の家庭学習の定着を図り、自主学習ノートの提出率が90%以上になる	1年89.4% 2年95% 3年77.4%	B	学習の手引の活用、自主学習ノートの指導、学習委員会との連携により、家庭学習の定着に努める	B	帰り学習の充実と学習委員会との連携を通して生徒の意識を高める。
	(3)縦持ち授業による学力定着と向上	(3) 授業のめあてに向かって考えたり努力している。85% 授業で友達と協力したり話合ったりする活動をしている。85%	授業のめあてに向かって考えたり努力している79.8% 授業で友達と協力したり話合ったりする活動をしている84.5%	B	生徒指導の三機能を生かした授業づくりを実践し学力の定着に努めている。小中連携を図り学力定着に取り組んでいる	B	小中の連携、各教科共通の学習スタンダードの確認、各教科会での授業研究を通して授業改善を進める。
豊かな心の育成	(1)各教科や領域で関連させた道徳教育の実践 (2)特別活動(学級活動)の充実 (3)予防・育成に重点を置いた生徒指導、健康安全教育、教育相談の実践 (4)広い視野と豊かな感性を育てる読書教育、図書館教育の推進 (5)お互いの個性を尊重し、共に生きる心を養う	(1)意識調査で自尊感情の肯定的評価が90%以上となる	全体では74%であり、「自分には良いところがあると思う」の肯定的評価が65%で低い結果になっている。	B	意識調査から自尊感情の肯定的評価が課題であるが学校生活全体の活動の中で取り組み豊かな心の育成に努めている	B	生徒の自尊感情を高めるために、肯定的評価を行ったり、積極的に関わりをもっていく。
	(2)教育相談等を通して生徒理解を深めるQ-Uの満足群が、全学年で70%以上になる	満足群は全学年で1年57%、2年66%、3年71%であり、目標に到達していない。	B	教育相談等を通して生徒理解を深める人間関係づくりに努めている	B	全てに活動を通じて、生徒の力で企画・運営をおこなえるような手立てを行い、達成感を感じさせる。	
	(3)支援や個に応じた支援が組織的に行われ、不登校の生徒が5%以下になる	病気以外で欠席30日以上生徒は11%(19名)と極めて厳しい状態。	C	不登校や支援に必要な生徒に対して家庭と連携を図り、ねばり強く取り組んでいる	C	学校内で組織的に支援が行えるように、情報の共有を行ったり、学校にある居場所を生徒や保護者に意識してもらおう。	
	(4)図書館利用者数述べ5000人、一人当たりの本の貸し出し数が5冊以上になる。また、全教科で図書館が利用される	利用者数3830人、一人当たり3、5冊であった。図書館の環境整備を進めている。	C	朝読書を実践し図書館の環境整備に努めている。図書館教育の推進に努める	C	希望図書を購入、図書館の開館時間の工夫。委員会の自主的な活動を通して、読書意識を高める。	
地域教育を生活実践した教育	(1)地域の教育力の活用による「夢実現」の支援 (2)保幼小中連携教育を通して生徒理解、共通認識による支援 (3)地域の食材と人材を活用した食育の推進	(1)学校評価全ての項目で生徒が90%以上保護者が85%以上となる	地域の教育力活用に対して厳しい評価になっている。	C	保護者地域と連携を図り地域を活用した教育の実践に努めている	B	生徒の日々の様子を学校だよりや学年だより、HP等で発信していく
	(2)保幼小中で共通認識による15年を見据えた教育が実践され、情報発信されている	連携教育が進み、情報の共有や地域の人材活用が進んでいる。	A	保幼小中連携を図り保幼小中連携カリキュラムに基づき取り組みができています	A	保幼小中の情報の共有、地域やJA等との連携を深めより情報を発信していく。	
教育活動力を通向上した健康と体力	(1)教育活動を通じた基本的な生活習慣の定着(早寝、早起き、朝ご飯)	(1)早寝、早起き、朝ご飯が定着し、朝ご飯を食べる生徒が90%以上になる	朝食摂取率は93%となり、目標は達成できたが、未摂取の生徒がまだいる状況である。	B	家庭と連携を図り、基本的な生活習慣の定着に努めている	B	基本的な生活習慣の定着を深める活動をさらに進めるとともに食育を通して食への意識・関心を高める。
	(2)体力テストの分析結果を効果的に活用した授業実践、体力向上	(2)体力テストの全ての項目で全国以上になる	総合的な体力は全国以上になっている。	B	体力テストの結果を活用し、体力向上に努めている	B	体育や部活動の指導を通して、課題解決に有効な実技を取り入れる。
	(3)「運動が好き」の肯定評価を90%以上にして、体育や部活動を通して運動が好きな生徒を増やし、運動習慣を定着させる	(3)「運動が好き」の肯定評価を90%以上にして、体育や部活動を通して運動が好きな生徒を増やし、運動習慣を定着させる	男女とも「運動が好き」な生徒の割合は高い。	A	部活動に熱心に取り組めており生徒保護者の評価も高く、成果をあげている	A	肥満傾向の課題が解決しており、今後も運動と食生活のバランスに留意する。

【評価基準】 A：十分満足 B：おおむね満足 C：もう少し努力すべき D：大いに努力が必要

経営理念	<p>誇れる野市中を、みんなの力で！ ～『分かった！』と言える授業を！『ほっ！』とできる学校を！』めざして～ Challenge & Jump 「子どもたちに学びを！ 保護者に安心を！ 教職員にやりがいを！」 (公教育としての責任と地域からの信頼) ～「やさしさ」と「きびしさ」の統一～ ～すべての価値判断は「子どものために」を合言葉に！～</p>
------	---

中期経営目標	短期経営目標(評価項目)	自己評価		学校関係者評価(H29)		改善策等
		達成状況	評価	考察	評価	
豊かな心	基本的生活習慣の定着。(85%以上)	「早寝、早起き、朝ごはん等の基本的な生活習慣が身に付いている」の質問項目の肯定群は、生徒83.5%保護者76.0% 教員92.0%であった。朝食摂取率は91.8%(-1.3)と昨年同様高い値を得ている。	A	保健通信を定期的に発行するなど取組を継続してほしい。	A	規則正しい生活習慣が定着するよう、保健通信や学校だよりを通じて、保護者の意識の啓発を継続して行っていく。
	不登校生徒や教室に入れないなどの課題のある生徒への支援を行い、その減少に努める。(不登校生徒20人以下に減少)	2学期末不登校生徒(30日以上)の欠席は、16人である。3学期末の結果としては、若干20名を超える見込みである。	B	不登校生徒を20人以内にすることはできなかったが、取組の方向性は間違っていない。対応としてはAである。	B	現在行っている、定期的な支援会の実施、外部機関・SC・SSWとの連携を一層強め、組織的に対応を進めていく。
	自己肯定感を育む勇気づけや場の設定を積極的に行い、自尊感情を高める。(自己肯定感アンケート昨年度以上)	道徳意識調査の自尊感情の項目「ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがある」92ポイントと高い肯定数値であるが、「自分には良いところがある」67ポイント伸び悩んでいる現状である。	B	グラウンドスラムなど、生徒会が中心となって行う取組の効果が自己有用感につながってきていることが分かる。	B	生徒自身が目標を掲げ達成感を抱かせる取組を進めたり、肯定的評価をあらゆる場面で進めたりしていく。
	学級活動や生徒会活動を通して、コミュニケーション力や連帯感とともに、生徒の自治力を育成する。(生徒アンケート85%)	「問題が起こった時に、みんなで話し合っ解決することができる」の質問項目の肯定群は75.2%、「お互い良い所を認め合うことができる」の質問項目の肯定群は80.9%という結果であったため、目標値の85%には達成していない。しかし、3つの行事の縦割り(異学年グループ)で活動し、タテのつながりが発揮されるなど、生徒会活動を中心とした活躍がみられた。	B	行事等を通して、生徒と教員が一つとなって取り組んでいる。また、生徒会が中心となって、生徒の自治力が向上していることが分かる。今の取組を継続してほしい。	B	生徒会の活性化をはじめ、生徒自体の活動や自治的な取組がさらに活性化できるように組織のつながりを強化していく。
	キャリア教育(進路指導の充実)を推進し、将来の夢や希望をもった生徒を育成する。(生徒アンケート80%)	「目標や夢をもって学校生活を送っている」の質問項目の肯定群は78.5%(+2.5)であった。目標値の80%にはやや達成していない。	B	一昨年よりは、やや数値が高くなっているが、何のために行うのか、目的を明確にすることは大切である。キャリア教育の視点をもって小学校と一緒に取り組むことが大切である。	B	野市中学校の実態に応じたキャリア教育の視点(つけたい力)を活用し、総合的な学習の時間を充実させていくなどカリキュラム・マネジメントを実現させていく。
	人権教育、道徳教育を充実、推進(道徳意識調査の肯定的評価昨年以上)	道徳意識調査の「道徳の勉強は好きだ」の項目において肯定的評価5月72%、12月68%であった。昨年度の肯定的評価89.2%を大きく下回った。人権に関わる作品の応募にたくさんの生徒が参加した。(作文:県入選2、市最優秀1、ポスター:優秀2)	B	人権に関わる多くの取組に参加しようとする努力が分かるが、人権教育への具体的な取組を進めてもらいたい。また、道徳の教科化に向けた取組を進めてほしい。	B	人権教育の全体計画や指導計画の見直しを行ったり、道徳教育の授業のあり方を校内研修で学びあったりするなど改善を図る。また、日々の生徒との関わりの中で道徳に対する意識を高めていく。

中期経営目標	短期経営目標(評価項目)	自己評価			改善策等		
		達成状況	評価				
確かな学力	主体的・協働的な学びの育成～生徒一人一人が「分かる・できる」が実感できる学習活動をめざす～	校内研修や教科会を活性化し、授業改善に組織的に取り組む。(教員アンケート肯定群90%)	組織力向上に関する教職員アンケートは、全項目ほぼ100%に近い数値で、教員全員が組織が活性化しているという意識をもっている。定例教科会は1月現在28回実施し、教科主任会9回実施した。	A	若年の教員への関わり方に工夫は必要だが、継続して取り組んでほしい。	A	教科主任会や教科会の質の向上を目指し、学力向上に結びつく取組を進める。
		生徒指導の3機能(自己決定・自己存在感・人間関係育成)を生かした授業づくりを行う。(授業スタンダードの日常化80% 授業の工夫85%)	ベア・少人数の活用7月57.1% 12月64.3%、班学習の活用7月53.6% 12月71.4%といずれも改善されており、仲間と共に学び合う授業を行っている。このような授業を実践することで、生徒の自己存在感の意識も高まってくると考える。自力解決も7月60.7% 12月64.3%と改善の傾向にある。	B	学力向上に結び付くような授業改善に取り組んでほしい。	B	総合的な学習の時間を中心に置いた教育課程の見直しを行い、探求的な授業づくりができるように各教科の授業改善を図っていく。
		組織的に授業規律の定着を図る。特に聞く態度を育成する(授業評価肯定群85%)	「聴くコンテスト」を年間2回行った。結果としては、5月の全体平均75.4%に対し、1月の全体平均72.3%となっており、-3.1pt下がっている。	B	「きく」ことの大切さを日頃から生徒に伝え、小中連携で取り組んでいく必要がある。	B	小中連携で作成した「きく」指導を実現させ、授業規律の定着に引き続き取り組んでいく。
		家庭学習の習慣化に努め、予習・復習の質と量を高める。(家庭学習1時間以上70%)	家庭学習への実施率 1年44.2%、2年37.7%、3年75.2%であった。1・2年生の家庭学習の習慣化に課題がある。.	C	家庭学習を行うことが当たり前の風土を作っていくことが大切である。	C	家庭学習を行う意義を生徒たちに伝えたり、意識づけたりすると共にタテ(教科)とヨコ(学年)の関連性や日々の授業との関連づけた家庭学習の見直しを図っていく。
		複数教員による教科指導や少人数学習の効果的な活用や、個に応じた支援を行う。(授業理解85%以上)	授業理解に関わる質問項目の肯定群は、生徒76.6% 保護者55.6% 教員67.0%であった。目標値の85%には達成していない。	C	数値の結果にはつながっていないが、学校としては個々に応じた対応を行っている。	B	日頃の授業の中で、ユニバーサルデザインの視点に立ち、生徒の学びあいを主体においた授業づくりを行う。また、LD等個別支援が必要な生徒について効果的な指導・支援法について研修を深め、実践していく。
信頼される学校	保護者や地域に開かれた学校づくりに努め、信頼される学校を確立する。	予防的な視点での生徒指導に努め、落ち着いた学校を維持する。(問題行動発生件数10件以下)	2学期末の問題行動発生率は5件である。落ち着いた学校を維持することができている。	A	今までの先生方の努力や保護者の協力があっての結果であると思う。継続してほしい。	A	生徒の情報交換を密に行い、開発的な生徒指導を引き続き取り組んでいく。
		参観日や行事等、学校の活動に保護者や地域の人参加を増やし、地域の教育力の活用を努める。(参観者10%増)	各行事等の参観者は昨年とほぼ同様である。そのため、目標値の10%増を達成することができていない。親子参観日については若干地域等からの参観者(+20人)が増えていた。	B	各行事に多くの保護者が参加している。今行っている内容を継続していったらよいと思う。	A	保護者のニーズに応えられるようなPTA活動の工夫や、保護者が参加しやすい環境を引き続き整えていく。
		保護者や地域へ学校の情報を積極的に発信する。(80%)	「学校が保護者や地域へ情報提供をしている」についての質問項目の肯定群は保護者82.6%(+1.1) 教員100%であった。目標値の80%を超え、目標を達成することができた。	A	連絡メールや学校便り等を通して保護者に必要な内容を適切に伝えていく。今後も継続してほしい。	A	学校からの情報発信を連絡メールや便り等を効果的に活用していく。
		学校評価を実施し、学校運営の改善に努める。	年間3回開かれた学校づくり推進委員会を開催した。12月に学校評価を実施した。「保護者や地域の声を活かしている」70.5%(+1.3)「保護者と一緒になって子どもをよくしていくとする気持ち強い」75.3%(-0.5)、「保護者の意見に耳を傾けている」74.7%(-2.5)であった。	B	教職員が、保護者と共に子どもをよくしていくと意図している姿や学校をさらによくしていくとする姿はみられている。数値目標は若干下がっているが、継続して行ってほしい。	B	学校運営を進めていく視点に立って、学校評価アンケートの内容の見直しを図ったり、得た内容を効果的に活用し、その内容を地域や保護者に発信していく。
		安心・安全な学校づくりを進める。	学校安全計画を踏まえ、教職員と共有を図りながら、危機管理に努めてきたが、自転車の乗り方については、地域の方から注意を再三受けている。避難訓練を3回実施した。	B	地域の方や保護者と共に、生徒の安全を守るための対策を講じ、取り組んでいることが分かる。	B	自転車の乗り方など地域や保護者と連携し、引き続き指導を進め、生徒の安全に対する意識を高めていく。

評価基準
A:十分満足 (~ 80%)
C:もう少し努力すべき (60% ~ 40%)

B:おおむね満足 (80% ~ 60%)
D:大いに努力が必要 (40% ~)

平成29年度 香南市学校評価報告書

香南市立夜須中学校

経営理念	<p>【教育目標】 人権を尊重し、郷土を愛し、自主的で社会性豊かな生徒を育成する</p> <p>「行きたい」、「行かせたい」、「勤めてよかった」魅力ある学校の実現 <めざす生徒像> ○自分の存在を大切にしている生徒 ○支え合い認め合う生徒 ○氣力に満ちた生徒 <めざす学校> ○生徒が生き生きと活動している学校 ○学力を向上させる学校 ○保護者・地域から信頼される学校 <めざす教職員像> ○教育に対する熱意と使命感を持つ教職員 ○子どもの良さを引き出し伸ばすことができる教職員 ○組織人として責任感や協調性を持ち、互いに高め合う教職員</p>
------	---

中期経営目標	短期経営目標(評価項目)	自己評価		学校関係者評価(H28)		改善策等	
		達成状況	評価	考察	評価		
1 学力の定着・向上	1教科経営の充実	(1)伝え合い、学び合う授業の確立(学校評価アンケート「教科指導」の全項目90%以上) ・小中授業スタンダードの日常化 ・授業改善プランに基づき実践→検証→改善 ・講師招聘による授業研究の実施 ・小中連携による学力向上の取組実施	生徒による評価は、「教え方を工夫している」96.6%、「全員参加ができるよう配慮している」94.8%、「授業は楽しい」84.5%、「授業はよくわかる」89.7% 校内授業研2回、小中合同授業研2回実施。他県との交流授業研1回実施。 指導主事による指導・助言をもとに授業改善を実施。	A	学力向上に結びつくよう引き続き授業改善に取り組み、生徒の進路を保障してほしい。	A	生徒が積極的に活動し、互いに学びあい、深め合うことができる授業、生徒がわかる・楽しいと感じる授業づくりに一層取り組む。 授業参観旬間等、授業を見合うことで授業力を高める。 乗り入れ授業や授業参観等により、小中の教科間の連携を深め、系統性のある授業づくりに取り組む。 ユニバーサルデザイン研修を引き続き実施。
	☆主体的な学びによる学力の定着と向上を目指す	(2)基礎基本の定着(「学力向上実感」85%、家庭学習1時間未満10%以下) ・家庭学習の意欲が増す課題の提示。 ・家庭学習と連動した授業実践。 ・帰り学習の実施・充実	「学力向上実感」82.8% 「家庭学習1時間未満」13% 「帰り学習は学力向上に役立っている」87.2% 自主ノートコンテストを実施し、表彰、掲示を行った。 手本となるノートの生徒による分析で、質の向上につながった。	B	家庭学習時間が少ない。家庭学習が習慣化できるよう力を入れてほしい。	B	家庭学習の手引きを見直し、充実を図る。 意欲が増す課題の提示や家庭学習と連動した授業実践に継続して取り組む。 家庭学習の習慣化に小中連携して取り組む。 帰り学習と週末問題を継続して実施。
		(3)個別支援・加力学習の充実(標準学力調査評定「1」の生徒の学力向上実感100%) ・TT、取り出し等の個別学習支援の実施。 ・放課後加力学習の実施	標準学力調査評定「1」の生徒の学力向上実感2/3。 取り出しやTT、加力学習等、個に応じた学習支援を実施したが、必要な生徒全員に行うことは難しかった。	B	個々の生徒に応じた支援の充実に今後取り組みでほしい。	B	個々の生徒の学習状況を把握し、生徒にとって効果的な指導法を研究し、実践する。 学力調査結果の検証・分析校内研で、課題のある生徒に焦点を当て、支援の方法や手立てを協議する。 放課後学習等での支援を充実する。
2 共に学び合い高め合う集団づくり	2学級経営の確立	(1)開発的・組織的生徒指導の実施(自己肯定感75%) ・ボイスシャワー、活躍の場の設定。 ・SC、SSWとの連携強化 ・生徒指導委員会の活性化	自己肯定感領域73.6%「よいところがある」56.1% 生徒が主体となった行事や生徒会活動が行われ、活動を通して自身の成長を感じている生徒は93.1%。	B	生徒主体の行事や声かけなど取り組んでいるが、自己肯定感が低い。自己肯定感の向上に向けてさらに取り組んでほしい。	B	日常的なボイスシャワーとともに、生徒の思いを聴く個人面談など、がんばりや優しさの価値付けに積極的に取り組む。 学校全体での生徒理解の徹底。 生徒指導委員会の活性化。
	☆どの子にも居場所があり、成長できる学級づくりを目指す	(2)人権教育・道徳教育の充実(道徳の時間に関する肯定的回答93%) ・授業研や研修会の実施。 ・効果的な授業を計画的に実施。	道徳の時間に関する肯定的回答72%。 いじめについて生徒会が主体となった授業を実施。	B	道徳の時間の授業改善が課題である。	B	道徳科の趣旨を踏まえた道徳全体計画・年間指導計画の作成。 「考え、議論する道徳」の授業研究。
		(3)学級活動の充実(「心落ち着ける学級の雰囲気がある」85%) ・相手を受け止め、自分の思いを表現できる集団づくり。 ・学級生徒会の活性化。 ・学級づくり研修の実施、活用。	「心落ち着ける学級の雰囲気がある」89.7% 専門家による生徒理解研修やユニバーサルデザイン研修、学級作り研修を実施し、教員の生徒理解力を高め、見取りや助言を学級・授業づくりや支援に活かした。	A	読み聞かせでは、大事なところをくいいるように聴いたり、考えてもらいたいところできちんと着いてきており、落ち着いた学校生活が送れている。	A	生徒理解力の向上に継続して取り組み、SCや専門家の見取りや助言を学級・授業づくりに活かす。 生徒主体の活動や自治的な取り組みをさらに進化させる。 生徒指導の3機能(自己決定・自己存在感・人間関係育成)を活かした授業や特別活動を行う。
	(4)キャリア教育の推進(「将来の夢や希望を持っている」85%) ・将来の夢や希望を持った生徒を育成	「将来の夢や希望を持っている」79.6→85.7% 「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」63.0→80.4%	B	自分の夢や地域の将来について考える生徒が増えてきている。引き続きキャリア教育の充実に取り組んでほしい。	A	生徒が意欲的に自分の将来や進路について考えることができるよう、キャリア教育の内容の工夫と充実に取り組む。	

中期経営目標	短期経営目標(評価項目)	自己評価		学校関係者評価(H28)		改善策等	
		達成状況	評価	考察	評価		
3 心と体の健康度向上	(1)組織的支援の充実(新たな不登校生徒0人、欠席数の減少) ・生徒理解研、定期的な校内支援会の実施。 ・生徒・保護者、教職員への相談支援 ・校内支援会の定期的実施	保護者も入った支援会を定期的に実施。別室での支援体制を整え、不登校を防止し、教室への復帰につなげた。不登校出現率8.6%(5人)。新たな不登校0。	B	保護者を交えた支援会の実施など、不登校の減少に向けて努力している。	B	定期的な支援会の実施、外部機関やSC・SSW・民生委員等との密な連携、校内支援体制の構築等、組織的な取組み・対応を継続する。専門家による生徒理解研を実施し、生徒理解力を高め、見取りや助言を学級づくりや支援に活かす。初期対応や個別支援を充実する。	
	☆心と体の健康度が増し、落ち着いた学校生活が送れるようになることを目指す。	(2)基本的生活習慣の定着(朝食摂取80%以上、12時以降の就寝18%以下) ・生活習慣調査の実施・分析・広報 ・家庭の協力による子どもの生活改善	朝食摂取(毎日)91.1%、12時以降の就寝28.6% 保幼小中連携して生活調査とふれあいカードの実施・分析・広報を行った。 就寝について集会で全体指導を実施した。	B	就寝時間に課題がある。生活リズムの改善に取り組んでほしい。	B	生活改善プロジェクト部会を中心に保幼小中が連携して就寝時間の改善に取り組む。特にスマホやゲーム利用の改善について保護者と協力して取り組む。
	☆体育の授業や部活動など日常的な体育活動・体育行事を通じてバランスのとれた体や運動能力を育成する。	(3)家庭・地域・関係機関との連携強化 ・関係機関・施設等とのケース会の実施 ・地域支援地域本部や専門的分野からの支援による活動の充実	関係機関・施設等とのケース会を実施。民生委員やSC、SSWの協力のもと、生徒支援が進んだ。保護者も参加しての支援会を継続して実施し、家庭との信頼関係を築いた。「教職員に相談できる」83.6%	B	関係機関や地域と連携して取り組んでおり、評価できる。	A	民生委員との連携をいっそう深める。保護者も参加した支援会を継続して実施する。自主防災組織等と連携して、地域とつながった防災教育を実施する。
	(4)体力づくり(「体力に自信がない」50%以下「運動が好き」90%以上) ・体力向上カリキュラムに沿った取組の実施 ・体育授業の工夫と基礎体力づくり	「運動がすき」78%。「体育の授業は楽しい」95%。 「授業で上達した」86% 体力向上プログラムの実施。 2年男子体力合計点(T得点)37.6、女子50.6	B	継続して体力向上に保幼小中が連携して取り組んでほしい。	B	体力向上プログラムの見直しと効果的な活用。生徒が目標を持って取り組み、自信が高まる授業研究と実践。「できてうれしい」などの成功体験を増やす	
4 学校経営の確立	(1)開かれた学校づくりの推進(「学校の開かれ度」90%) ・情報提供の促進 ・地域との会合の計画的実施 ・夜須町PTA連絡協議会との連携 ・学校支援地域本部の活動の充実 ・地域題材を取り入れた授業実践	「学校の開かれ度」保護者96.4%、地域85.7% 学校便りの配布・回覧(毎月) 保幼小中のPTAの協力のもと、香美・香南地区PTA研究大会を開催。 保幼小中、地域との連携は計画通り実施。 地域の方の協力による授業の実施(のべ30回43時間)	B	地域への便りの配布・回覧等、情報を知らせてくれている。さらに便りを見やすく工夫してほしい。	A	読みやすさなど便りの質の向上に取り組む。家庭・地域への情報提供を積極的に行う。地域と協力・連携した教育活動を促進する。地域題材を取り入れた授業の実施。行事や参観日等への案内を積極的に行い、参観を呼びかける。	
	☆課題意識の共有と協働による組織的な取組のできる学校を目指すと共に、保幼小中連携から一貫性のある教育実現を目指す。	(2)保幼小中の連携の強化(「系統的な取組と改善」70%) ・教職員間の交流の活性化 ・3プロ4カリ部会で課題を共通認識し、課題解決に向けた取組の実施。	「系統的な取組と改善」85.7% 3プロ4カリを中心に課題共有が進み、取組を計画的に進めることができた。 小への乗り入れ授業や合同授業研を計画通り実施。	A	保幼小中連携が進んでいる。今後も保幼小中が協働して課題解決・向上に取り組んでほしい。	A	3プロ4カリ部会を中心に教職員間の交流を活性化し、「チーム夜須」として取組を協働して進める。防災教育、道徳教育に保幼小中連携・協働して取り組む。(防災カリキュラム会、仲間づくりプロジェクト会を中心に)
	(3)改善サイクルの確立 ・学校評価を実施し、PDCAサイクルを活かした学校運営の改善。	12月に学校評価アンケートを実施。「保護者・地域の意見の学校運営への反映」87.3%	B	引き続き、生徒・保護者・地域の意見を学校運営に反映してほしい。	B	取組の検証を確実にを行い、改善につなげる。	
	(4)教育活動のスリム化最適化(「進んでいるか」65%) ・会議の効率化と簡素化、事務処理の改善。 ・行事の見直しと部活動の最適化。	教育活動のスリム化最適化「進んでいる」28.6% 教員の多忙感が増大した。	C	遅くまで仕事をしている。子どもを一人の人間に育てて行くにはたくさんの仕事があり、簡単にはいかないが、多忙感が肥大しないよう取り組んでほしい。	B	会議や事務処理の効率化を進める。働きやすい環境づくりを行い、多忙感を解消する。勤務時間の把握に取り組む。	

評価基準 A:十分満足 (~80%)
C:もう少し努力すべき(60%~40%)

B:おおむね満足 (80%~60%)
D:大いに努力が必要 (40%~)